

第 1 編 基本構想

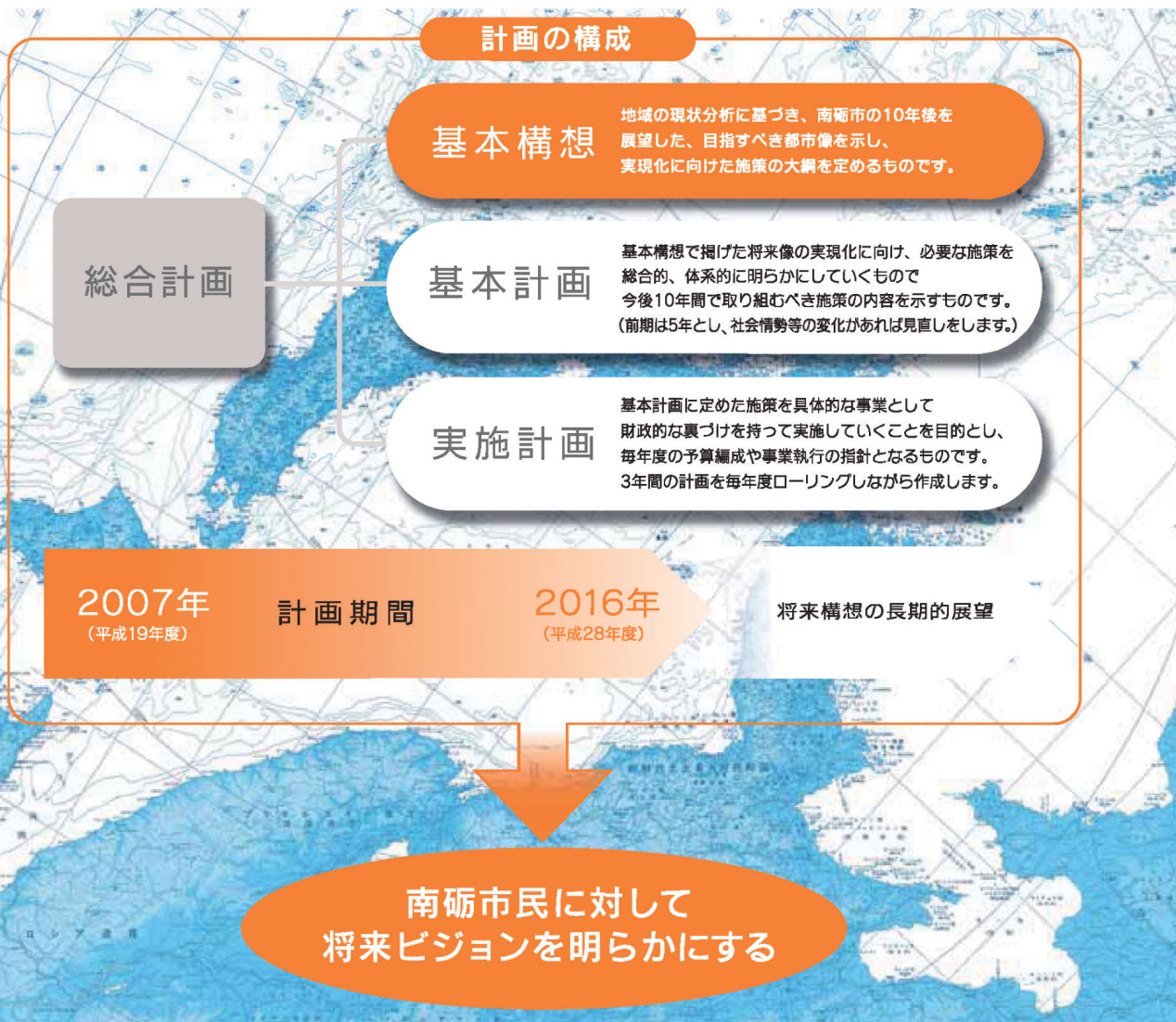
序論 Introduction

自然・文化・交流が織りなす 創造とやすらぎの南砺市。

平成16年11月1日、8つの町村が強い連携と信頼のもとに合併し、新たなまちづくりへの第一歩を踏み出しました。

もてる自然や風土のうえに、永年にわたり培われてきた歴史や文化、産業や人材を貴重な資源として、美しく住みよいまち、創造的で元気なまち、開かれたふれあいのまちを目指していきます。

この基本構想は、これからの南砺市の姿を描くとともに、これを実現するための施策の方向性を明らかにするものです。



南砺市の概要

Outline of Nanto City

豊かな自然に抱かれた固有の文化。

中世から近世にかけて、瑞泉寺の建立や善徳寺が移築されると、井波や城端は門前町として、また、福野や福光は市場町として栄えてきました。

平野部では、加賀藩の支配下で新田開発が進められ、散居村という特有の田園景観が形成されました。

また、五箇山地方では、豪雪地帯特有の民家「合掌造り」の集落が見られるなど、独自の風土に根ざした固有の文化を育んできました。



位置

本市は、富山県の南西端に位置し、東に富山市、西に石川県金沢市、南に岐阜県飛騨市や白川村、北に砺波市や小矢部市と隣接しています。



面積

東西約 26 km、南北約 39 kmで、琵琶湖とほぼ同じ面積 (668.86km²) を有しています。

地勢

山間部は、白山国立公園にも指定され、本市の約8割を占める森林を擁しており、庄川や小矢部川の恵みを受けた平野部には、豊かな水田地帯が広がっています。

文化

伝統工芸をはじめ、香り高い歴史や世界文化遺産等の文化資源を有するほか、独自の芸術・文化イベントを通じて、国内外との交流に取り組んでいます。

人口

平成17年の国勢調査によると、人口は 58,140 人、世帯数は 16,980 世帯、1 世帯当たり 3.42 人となっています。

時代の潮流 Current of the times

安心して子どもを生み育てられる環境づくりや
高齢者の健康づくりなどをはじめ、
人口減少と少子化・高齢化への対応が求められています。

人口

産業構造の転換、経済のグローバル化、就業形態の多様化など、
社会経済が大きく変動するなか、
地域に根付いた経済・産業の振興が求められています。

経済

時代の流れに歩調をあわせて。

時代が大きな転換期を迎える今、それらに対応したまちづくりが求められています。

情報ネットワークの基盤が整い、日常生活にも
浸透した今日では、これらを活用して、
社会全体の活性化や生活の質を高めることが求められています。

情報

市民・企業・行政が一体となって、廃棄物の発生抑制や
再使用・再生利用などに取り組み、自然に優しく
持続可能な循環型社会を構築することが求められています。

環境

心の豊かさへと価値観が変化するなか、
地域固有の伝統・文化の発展・継承や多様な
ライフスタイルに対応した地域社会づくりが求められています。

価値観

地方分権が進展し、道州制や教育問題が議論されるなか、
市民・企業・行政が一体となった個性ある地域社会を創造するとともに、
地域社会と連携した教育体制の確立が求められています。

社会

安心・安全

世界規模の自然災害の発生、食の安全問題、
犯罪の多発・低年齢化・凶悪化などに対して、
暮らしの基本となる安全・安心の確保が求められています。

市民

地域活力や生活の質的な向上を図るため、
市民の主体的な参画のもと、行政との協働によって、
地域の実情に合わせた活動の展開が求められています。

現状と課題

Present situation and problems

地域の特性

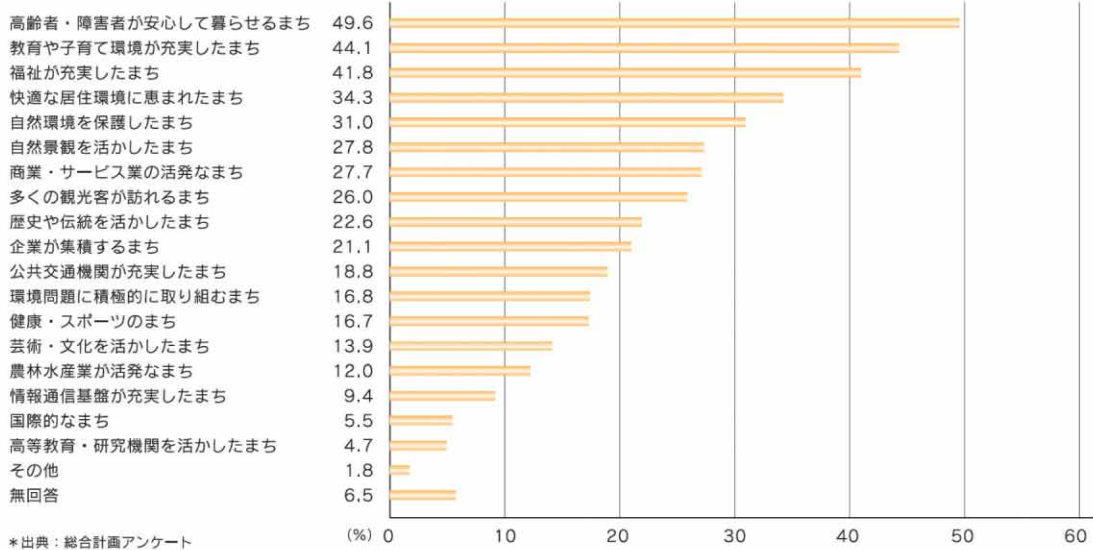
立地環境

- 豊かな自然に恵まれている。
- 伝統工芸や世界文化遺産等香り高い歴史・文化を有する。

社会環境

- 人口 人口減少および少子化・高齢化が進行。高齢単身世帯が増加。
- 産業 第1次産業および第2次産業の就業人口割合が比較的高い。
農林業は、農産物・木材価格低迷や後継者などの問題。
干柿、里芋、そば、赤かぶ、チューリップ球根などの特産品づくりへの取り組み。
工業は、製造品出荷額が横這い。
地域商業の核である中心市街地活性化への取り組み。
- 観光 多くの観光資源を有し、山間部ではグリーンツーリズムを推進。
- 交通 東海北陸自動車道の全線開通による広域交流拡大への期待。
- 生活圏 隣接する砺波市との強い関連性。
- 情報 なんと -e.com やケーブルテレビ、住民基本台帳カードなどによって、市民が情報通信技術に接する機会が増大。

市民の意向



少子高齢化に対応した
地域づくり

子どもを産み育てやすい環境づくりを進めるとともに、高齢者が住み慣れた場所で生涯にわたり、生きがいを持って暮らせる地域づくりが求められています。

心豊かでたくましい
子どもを育む地域づくり

子ども達の個性を尊重しながら生き抜く力を育む学校教育の充実と、家庭・学校・地域が連携して、心豊かでたくましい子どもを育む地域教育の実践が求められています。

安全・安心に暮らせる
快適な居住環境づくり

誰もが安全に安心して快適に暮らせる地域づくりを進めるとともに、自然災害などにおける自助・公助・共助の連携による防災力や防犯力の強化が求められています。

地域の宝を活かした
魅力づくり

世界文化遺産の合掌造り集落や民俗芸能、伝統祭事などの「地域の宝」を市民一人ひとりが誇りとして守り育み、国内外にその魅力を発信することが求められています。

今後の課題

企業誘致、伝統・地場
産業振興とモノづくり

企業立地の促進や新たな産業の育成に努めるとともに、木彫工芸品等の伝統産業、地場産業の振興や担い手の育成、技術の伝承などが求められています。

農林水産業の支援と
地域ブランドづくり

経営基盤の強化や食育・地産地消の推進や良質な農林水産物を活かした地域ブランドづくりが求められています。

市民が主役の
協働型まちづくり

市民一人ひとりが地域づくりの主役であるとの認識のもと、住民相互の支え合いや市民と行政の協働によるまちづくり活動の推進が求められています。

効率的で健全な行政運営
と財政基盤づくり

これからの時代を力強く生き抜く自立した都市を目指し、行政サービスの維持・向上を図り、効率的で健全な行財政運営の推進が求められています。

将来構想 Future image

さきがけて 緑の里から 世界へ

美しい日本の原風景が息づく南砺市。

世界文化遺産・合掌造り集落、おだやかな散居の自然景観。

日本や世界の各地と活発にネットワークし、進取の気風に富む南砺市から、新たな文化と産業がはばたく。

「さきがけて 緑の里から 世界へ」

どこにもない世界に誇れる都市づくりに向け、市民と行政がともに夢や目標に向かって果敢に挑むまちづくりの姿がここに 있습니다。

将来の人口と世帯数の推移

平成17年の国勢調査による人口をもとに、目標年次である平成28年における人口を、コーホート要因法[※]により推計した結果平成23年に55,565人、平成28年には53,074人となるが見込まれます。

しかし、地域特性を生かした企業誘致や新産業創出、子育て支援、居住環境整備などにより、若年層を中心とする定住化とIJUターン促進を図るものとし、平成28年の目標人口を56,000人とします。

また、近年の核家族化の進行により平成28年の世帯人員は3.10人、世帯数は18,050世帯と設定します。

※コーホート要因法

男女別5歳階級を基準人口とし、これに将来の生存率・移動率・出生率・出生性比の変化データ要因を用いて推計する手法。



	H17	H23 (推計)	H28 (推計)	H28 (目標)
人口 (人)	58,140	55,565	53,074	56,000
世帯数 (世帯)	16,980	17,130	17,095	18,050
世帯人員 (人/世帯)	3.42	3.24	3.10	3.10

取り組みの姿勢

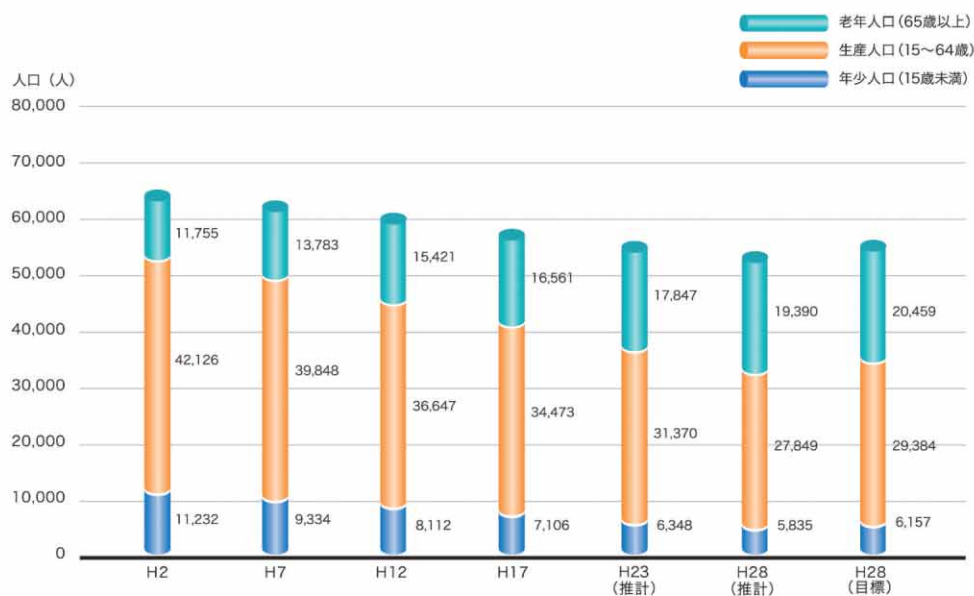
「さきがけて 緑の里から 世界へ」の達成に向けて、次の3つの基本目標を設定します。

- 基本目標 「美しく住みよいまち」
- 「創造的で元気なまち」
- 「開かれたふれあいのまち」

年齢階層別人口の推移

少子高齢化を反映し、今後の高齢化は急速に進展し、平成17年は28.5%であった65歳以上の老年人口比率は、平成28年には36.5%にまで高まるものと見込まれます。

一方、年少人口、生産人口はそれぞれ平成17年の12.2%、59.3%から平成28年には、11.0%、52.5%へと低下するものと見込まれます。



基本目標
Basic aim



基本方針 Basic policy

3つの基本目標に基づき 7つの方針を掲げます。

自然に優しい住みよいまちづくり

豊かな自然環境の保全と活用、そしてうるおいのある環境の維持のために自然に優しい循環型社会の構築を目指します。

安全で快適なまちづくり

市内外を結ぶ交通・情報通信ネットワークや、身近な生活環境の向上、安住基盤の確保によって、いつまでも暮らし続けたいと思う安全で快適な地域づくりを行います。

健やかなやすらぎのまちづくり

全ての市民が健やかに暮らせるよう、地域が一体となった総合的な福祉・健康対策を推進するとともに、医療・救急体制の充実を図ります。

心豊かで創造的なまちづくり

家庭、地域、学校が一体となって、創造力にあふれる人づくりと地域社会の形成を図ります。また、地域文化の保存・継承で地域の魅力向上を図ります。

いきいきとした活力あるまちづくり

農林業施設の展開や伝統・地場産業の育成と振興、観光・商工業の振興を推進し魅力の創造と連携した足腰の強い地域づくりを展開します。

交流と調和のまちづくり

市民参画のシステムおよび自発的な活動の支援体制を構築し、地域に根ざしたふれあいのもとに市民と行政が一体となって魅力的な地域づくりを推進します。

健全で開かれたまちづくり

行政の効率化、財政の健全化を図り、将来における安定した行政サービスの提供、そして情報公開など地域に開かれた行政体制を構築します。

土地利用構想

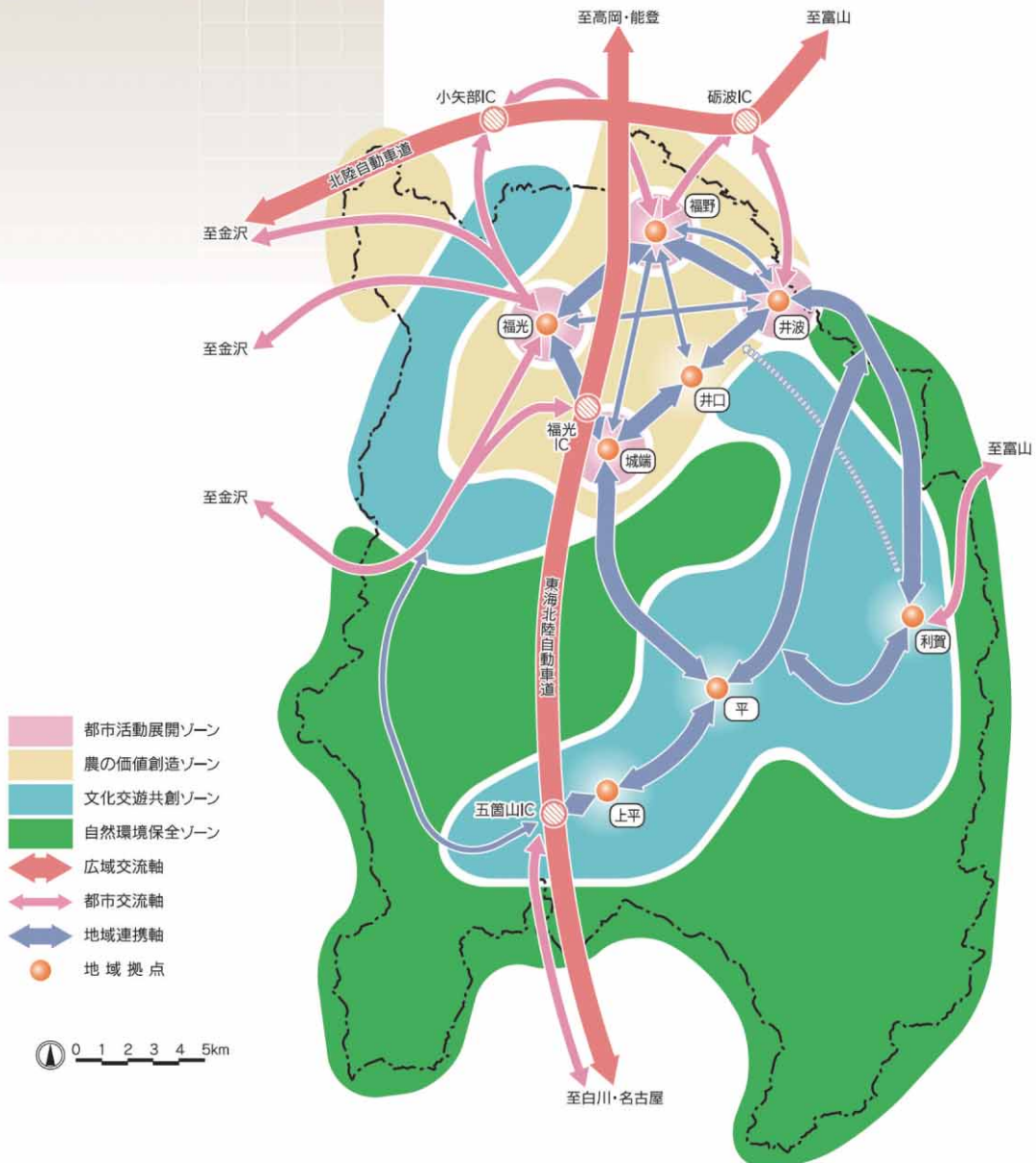
Land use design

豊かな自然と文化を活かす都市づくり。

豊かな自然と美しい風景が広がる大地、地域で育まれた歴史や文化を大切に守りながら市街地や集落環境の充実を図っていきます。

また、各地域の能力を引き出し、人や物、文化、情報が循環する魅力的な南砺市を築いていきます。

さらに、交通・情報ネットワークを活かして地域内外との交流を一層深め、当市の魅力を広く発信していきます。



都市活動展開ゾーン

医療・福祉施設などの機能充実と連携強化を図り、安心して快適な生活環境を計画的に整えます。個性ある商店街の形成など、利便性と文化性を備えた賑わいある商業空間を形成します。工場適地への工業配置や工業用地の確保を図り、地域活性化の中核的な役割を担います。地域内外の人や物、文化、情報の交流拠点として機能を発揮します。

文化交遊共創ゾーン

美しく豊かな自然との調和を図りつつ、克雪対策をはじめ山村集落の生活環境の充実を図ります。世界遺産の合掌造り集落や国際的イベントなどの地域資源をネットワークさせた観光の展開など、地域内外の交流の場として中核的な機能を発揮します。

みのり 農の価値創造ゾーン

農業生産基盤の強化を図り、高品質な米を基幹作物とした水田農業の振興と、農産物の特産品開発を推進します。散居村の美しい田園風景を、今後も本市の魅力の一つとして保全、育成します。

自然環境保全ゾーン

豊かな自然環境を積極的に保全し、次代へつなげていくとともに、地域内外の人々の保健、休養の場として活かしていきます。

広域交流軸・都市交流軸

全国に広がる広域的な交流・連携を強化する軸として、東海北陸自動車道と北陸自動車道を「広域交流軸」と位置づけ、近隣都市などとの交流を促進する軸を「都市交流軸」として位置づけます。さらに、国内外に広がる情報通信ネットワークを活用して、本市の魅力を広く発信し、広域的な交流を促進していきます。

地域連携軸

地域を相互に連携し、また、市内東海北陸自動車道ICと各地域を連結する道路を「地域連携軸」として位置づけます。さらに、光ファイバー、ケーブルテレビなどの情報通信ネットワークを活用して、生活、医療、福祉、産業面における地域間交流を促進し、市内の連携を強化します。

地域拠点

市民生活の利便性を確保するとともに、各地域の個性や文化を守り活かした地域づくりを推進するため8つの「地域拠点」を設け、市民サービスの提供や各地域の振興策に取り組みます。

施策の大綱

Fundamental principles of policy

施策の目標

美しく住みよいまち

施策の方針

自然に優しい
住みよい
まちづくり

安全で快適な
まちづくり

健やかな
やすらぎの
まちづくり

自然環境

生活基盤

福祉・健康・医療

施策の柱

自然環境の保全と活用

循環型社会の構築

適正な土地利用の推進

道路交通網の整備

市街地の整備

情報通信ネットワークの活用

消防・防災体制の充実

交通安全・防犯体制の充実

克雪・親雪・利雪の推進

良質な住宅・宅地の供給

公園・緑地の整備

上下水道の整備

環境衛生対策の充実

地域総合福祉の推進

児童福祉・子育て支援の充実

高齢者福祉の充実

障がい者福祉の充実

健康づくりの推進

医療体制の充実

社会保障の充実

NANTO CITY

